

テーマ 7-(2)

「多文化共生社会の担い手へ」(人権課題:外国人)

1 学習のねらい・人権教育の視点

- (1) 外国人や外国人生徒等の増加及び国籍・言語の多様化を踏まえ、多文化共生の必要性を認識し、その実現に向けて、身近なところからできることを実践しようという意欲や態度を身につける。
- (2) 外国人生徒の事例をとおして、外国人や外国人生徒等のもつ背景や困りごとを理解し、外国人県民や外国人生徒等も含めたすべての人が安心して暮らせる地域づくりに向けて、主体的に取り組もうとする意欲や態度を身につける。

2 指導上の留意点

- (1) 外国人を一方的に支援する存在として捉えるのではなく、多文化共生社会では互いが役割や強みをもつ存在として認識させ、それらを生かした共生社会づくりに取り組む姿勢を身につけさせることが大切である。
- (2) 授業にあたっては、地域に在住する外国人や在籍する外国人児童生徒などの実態を踏まえることが大切である。
- (3) 外国人生徒や卒業生のスピーチなどを通して、彼らが実際に経験した困りごとや異文化体験を聞くことで、より身近に感じ、理解を深めやすい。

3 展開例

学習活動	指導上の留意点、使用する資料
「多文化共生社会」とはどのような社会だろうか。	
1 「多文化共生」の意味について考える。 2 兵庫県において言語や文化多様化している背景について考える。	○ 「キーワード」や「県内在住外国人の国籍・地域別の割合」などを参照し、外国人の増加や出身国や地域の多様化から、多様な文化的背景をもつ人々が共に暮らしている社会について理解させる。 ○ 少子高齢化による人手不足により外国人労働者の受入れが活発化していることを、「キーワード」の「改正入管難民法」にも触れながら理解させる。
外国人や外国生徒が、地域社会で困ることや戸惑うことはなんだろうか。	
3 資料「新しい自分」を読み、身近な事例として、外国人生徒の困りごとについて考える。	○ 家庭環境、言葉や文化の違いから生じる困りごとについて気づかせる。 ○ NHK for school の動画等で、外国人がさまざまな場面で直面する問題について理解をさらに深めさせる。
兵庫県の学校や身近な地域では、外国人生徒にどのような支援が行われているだろうか。	
4 外国人県民や外国人生徒への支援について考える。 また、資料から支援について読み取ったり、自分が同じような困り事を感じていたら、どのような支援が望ましいかについて考える。	○ 資料「新しい自分」を参考に、取り出しによる日本語指導や外国人枠入試、子ども多文化共生サポーターなど、学校での外国人生徒の支援のための取組や制度について理解させる。 ○ 資料の新聞記事から、「夜間中学校」の様子や役

	割について理解させる。
<div data-bbox="295 206 1295 257" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>多文化共生社会を作るため、私たち高校生ができることは何だろうか。</p> </div> <p>5 支援から視点を変えて、多文化「共生」社会の実現に向けて、多様な文化的背景を持つ人々とお互いに個性や能力を生かす取組や、それへのかかわり方などについて考える。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域での外国人住民との交流の場 ・ 異文化交流等の互いの文化を尊重できるような行事 ・ 通訳や日本語教室、外国語教室 ・ 外国人も参加した防災行事や地域行事 ・ 生活情報などの多言語化と情報提供 <p>5 グループで多文化共生社会の実現に向けてできることをポスターにまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人で考えることが難しければ、ペアやグループで考えさせたり、外国人の日本での困りごとを調べさせたりしてもよい。 ○ 資料「新しい自分」の生徒が通訳士として社会での貢献をめざしていることに触れ、多文化共生社会では、それぞれの強みや役割を共に活かそうとする姿勢が大切であることを理解させる。 ○ 「課題」「目標」「解決プラン」を具体的に考えさせる。

4 参考資料

(1) 外国人児童生徒にかかわる教育指針(兵庫県教育委員会、平成12(2000)年8月) [巻末資料]

(2) 外国人児童生徒等のための受入れハンドブック
～指導・支援を充実させるために～(令和2年兵庫県教育委員会)



(3) 文部科学省 外国人児童生徒受け入れの手引き(2019年3月)



(4) 出入国在留管理庁パンフレット(出入国管理のしおり)



(5) NHK for school 「外国ルーツの子どもたちと共に生きるために」
「ともに生きる日本人とブラジル人」
「外国人が悩む言葉の壁」「在留外国人」など



(6) クラスメートは外国人課題編「私たちが向かい合う多文化共生の現実」(明石書店)

[ワークシート]

多文化共生社会の担い手へ

年 組 番 名前

1 「多文化共生社会」とはどのような社会か考え、記入しよう

2 兵庫県で言語や文化の多様化が進んでいる背景を考え、記入しよう。

3 外国人や外国生徒が、地域社会で困ることや戸惑うことを考え、具体的に記入しよう。

4 兵庫県では、外国人生徒に対して、どのような支援や取組を行っているか、具体的に記入しよう。

5 「多文化共生社会」を作るために、自分たちができることは何だろうか。グループで話し合い、課題を一つ取り上げ、その具体的な方法や取組を考えてみよう。

<課題>



<解決プラン>

6 今回の学習で気づいたことや感じたことを記入しよう。